

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所スマイスセレソソサポート大手町				公表日	R7年 2月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		指導訓練室を区分分けし、工夫できている。個室のスペースを作っている
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		適切にできている	今後も、施設基準に沿って運営して参ります	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6		柱でスペースを分け、訓練内容により区分を分けている。	引き続き十分なスペースを作り、安全面を配慮して参ります	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		床がマット素材なので柔らかい素材の木が良い。清掃が行き渡っている	床素材への対応も含め、協議していく。空調や清掃にも工夫を重ねる。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		個別のスペースを作り、机上作業や情緒面の落ち着きの支援が出来ている	今後も臨機応変の対応をすすめて参ります	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		振り返りを含めた会を定期的に行う事ができている	定期的に随時振り返りを行い、目標設定を検討していく。出席可能な職員配置を行い周知して参ります	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		メールや電話で連絡を行い、改善に繋げている。	定期的な機会以外にも機会を設け、随時対応していく体制を続けていきます	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼、職員会議、帰りの会など日頃から、密に意見交換を行っている。業務改善に向けて調整を行っています	今後も継続予定	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			外部評価を周知し、業務改善に遇進して参ります	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	法人外も取り入れたほうが良いと思う	法人内の研修は、定期的に行っている。法人外の研修へ参加できる体制を整えており、実現しています	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		個別や集団など様々な角度から、立案を行い支援プログラムの作成、公表ができている	今後も活動の幅を広げ、支援プログラムの実施を行っていきます	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	1	アセスメントにて、保護者様のご意見を親身に聞き取りしています。現在未来の時間軸を視野に児童発達支援計画を作成できている		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援会議にて検討を重ね、考慮する機会を設けている		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援会議にて検討を重ね、考慮する機会を設けている。計画を実行するに当たり、変更が必要な場合は迅速に対応している	引き続き共通理解の下、運営して参ります	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		状況に応じ、有識者との意見交換を行い、最善を尽くしている		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		児童発達管理責任者先導のもと、具体的な目標設定がなされ、計画を下に支援ができている	関係機関との連携を行い、個別に応じた具体的な支援内容を実施していきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		個別に合わせた活動プログラムができている。保育士、児童指導員が実施している	季節のイベントも含め幅広く活動を広げ、立案実施を行っていきます	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	週案・日案をバランス良く行い、固定化しないよう工夫できている	小集団の活動や課外など、個別に合わせたプログラムを実施し、活動の幅を広げて参ります	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	心身の様子を観察し、臨機応変の対応ができている。状況に応じた支援が行き届いている		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	支援開始前に職員会議を行っています。ご利用児の出席や支援内容の確認を行い、チームでの支援を実施しています		引き続き、密な連携の下支援の実施を行います
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	支援終了後会議を行い、振り返りや療育内容を含めた共有を行っています。		事故防止・支援内容の確認・次回利用の活動内容など会議を行います
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	写真・文字で記録している。デジタルとアナログの両面で実施し管理している		文面だけでは伝わりにくい描写も写真を撮影することで検証することができている。事故防止も含め、改善につなげて参ります
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	モニタリングを行い、随時見直しができている。活動を行う中で見直しが必要な場合は会議にて相談している		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	支援員が参加し状況説明及び計画を行っている。	関係機関との連携をとり、児童の発達や困りへのサポートを行っています	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	保育園の行事にも併行して参加できるよう、調整を行い情報共有を行っている	今後も関係機関と連携し、情報共有や相互理解に努めて参ります	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	現在の支援内容や利用日数など情報共有を行い、相互理解を図っている		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2		今後も関係機関と連携し、情報共有や相互理解に努めて参ります。必要な場合は助言やスーパーバイズを受ける機会を設けていきます
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	近隣の保育園や幼稚園、利用児先の園と連携をとり情報共有している。他の子ども達との活動機会はない	法人内の児童と交流する機会があります。今後地域の園などとイベントの共有を提案していきます
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		メールや電話・アプリなどで発達状況や課題について共通理解を持っている	メールや電話・アプリなどでお知らせを行います。必要に応じ写真の提供や面談にて話し合いの場を提供致します
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		時間調整を行い、研修への参加を促していきます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	契約時に運営規程を説明し、随時支援プログラムや利用負担に対し丁寧な説明を行っている	丁寧な説明で分かりやすく表現し、プログラムや利用負担に対し説明を行います
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		ご家族や児童の困りに耳を傾け、要望に応じた支援計画の立案を行っています。	こどもや保護者の意志の尊重、こどもの最善の利益の考慮を踏まえて作成し、確認の機会を作成して参ります

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		丁寧に説明し、同意を得ている。不明な点に関しては、その都度丁寧に対応していきます	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的な期間以外にも、随時対応している。面談や電話にて必要な助言と支援を行っている	随時困りごとに寄り添い、解決へのサポートを行います
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		保護者の需要に合わせた機会の開催を検討しています
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		迅速に対応し、出来るだけ電話や面談にて聞き取りと解決に向けて調整している	随時様子を窺い、困りごとの解決に努めています
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		ハグのアプリにて連絡や行事予定の連絡を行っている。季節に合わせたイベントや課外活動にて個別に合わせた療育を提供している	アプリや紙でお知らせを行い、見直しをもった支援を提示していく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報同意書の説明を行い、写真の掲示や使用に対して同意を得ている	カルテや活動内容の報告も含め、個人情報の扱いに留意していく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		ポスターや言語・ボディランゲージなど意志がとれる方法を探しコミュニケーションに生かしている	メールや電話だけで情報伝達が足りないときは、ポスターや言語・サインなどで交流している。今後も継続の予定
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	事業所の行事にて地域住民への訪問はあるが、招待はない。	招待は検討していく。事業所の行事については、地域住民の理解をえながら、訪問などにて参加の機会をつくる予定
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		職員への周知できている。事故や感染症・防犯などの発生を想定し訓練している	家族への周知も検討し、活動への参加促しも行います
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的な訓練を行っている	今後も継続的に訓練を実施していく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		てんかん発作への対応について研修をしている。服薬や予防接種について確認を行い、臨機応変に活動内容の見直しを行っている	視診や検温により体調の確認を行います。服薬や予防接種など事前に情報を確認し、あらゆることを想定し活動していきます
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		該当児童なし	該当児童がいれば、十分な対応を施していきます
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、必要な研修や訓練を行っている	定期的な訓練を行い、防災や感染症対策を含め、安全な運営に務めます
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全確保に関して計画に明記し、家族の方へ説明している	不明な点があれば、その都度丁寧に対応していきます
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		チェックシートに記入し、都度再発防止に向けた方策を検討している	ヒヤリハットがおこった理由を追及し、再発防止への指針を共有している
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修に参加している	虐待防止チェックシートを使い、定期的な研修を行います
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		計画に明記し、保護者さんへ説明している	身体拘束の3原則を確認していきます	